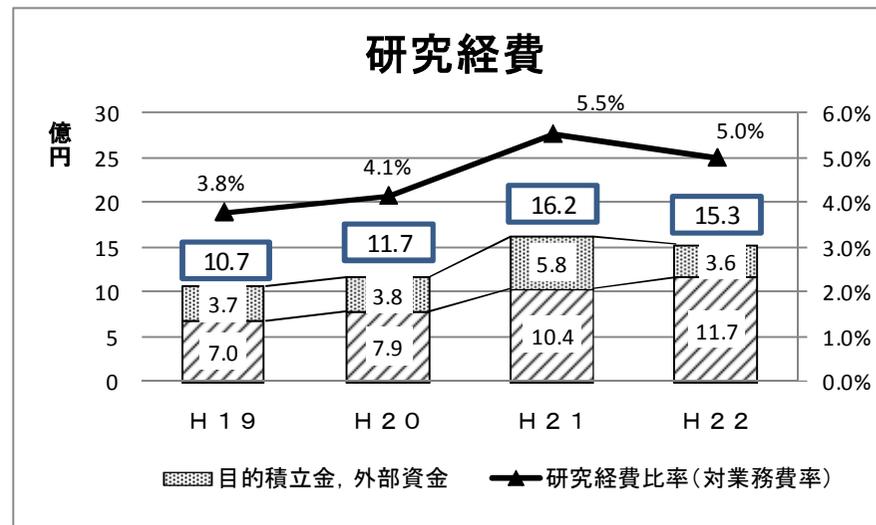
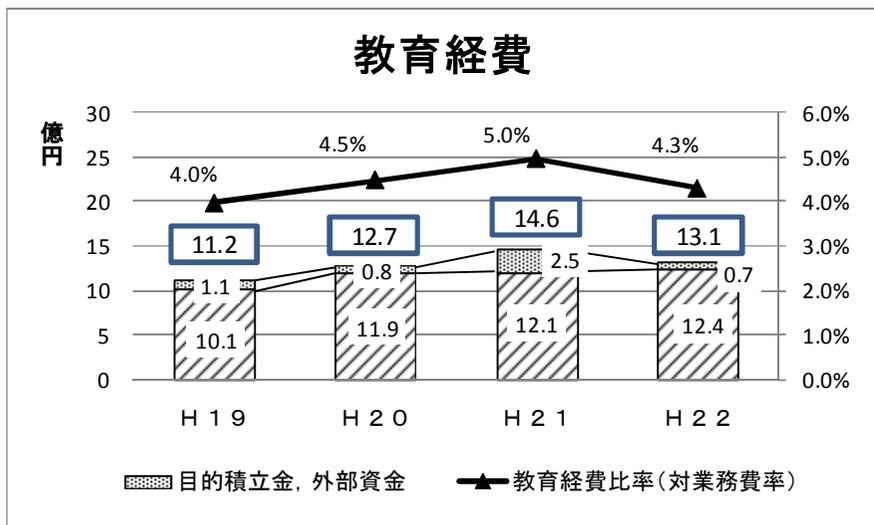

平成22事業年度決算概況

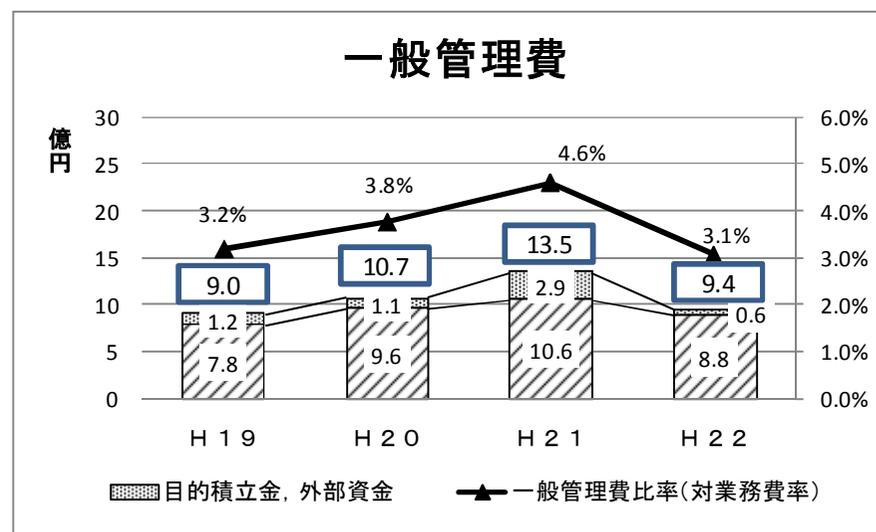
国立大学法人弘前大学

○教育経費，研究経費，一般管理費について



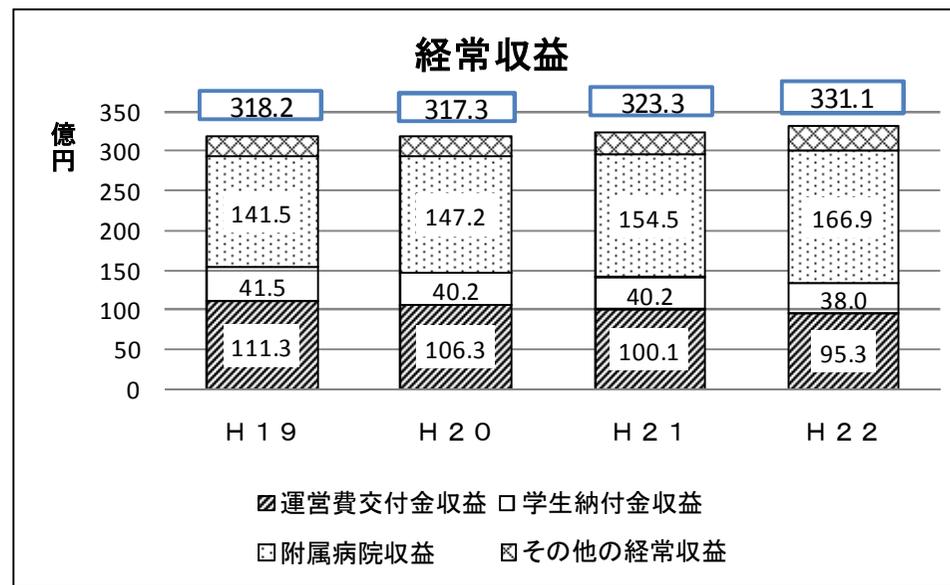
◆平成22事業年度は各経費ともに前事業年度に比べ減少しています。

◆平成21事業年度は第1期中期計画期間の最終年度であり，目的積立金等を活用して教育・研究に資する基盤整備に重点投資を図ったことから各経費ともに増加しており，平成22事業年度は前事業年度に比べて減少(平年度化)しています。



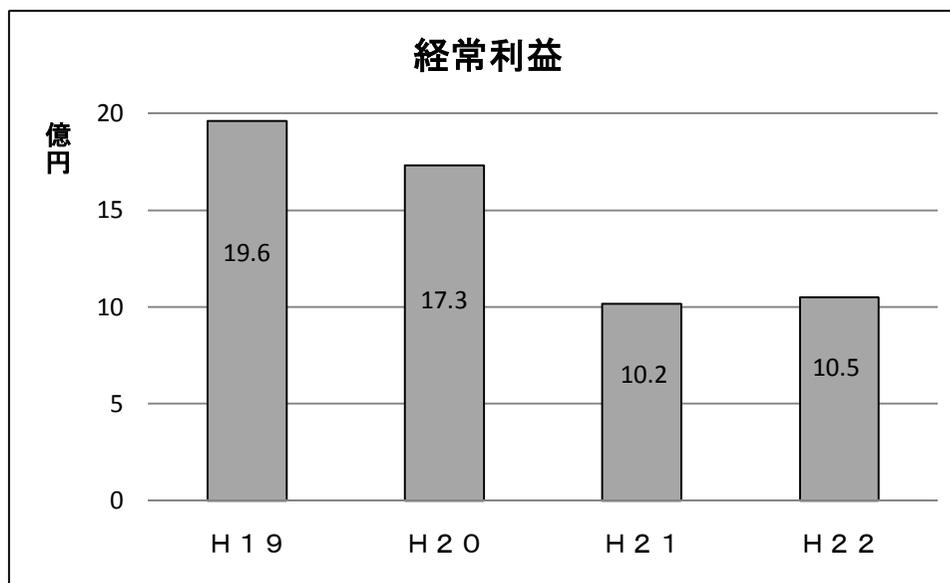
○経常収益について

- ◆ 経常収益は7.8億円増加の331.1億円となっています。
- ◆ なお、附属病院収益は高度救命救急センターの稼働、外来化学療法の数増加等により12.4億円と大幅に増加しています。



○経常利益について

- ◆ 経常利益は0.3億円増加の10.5億円となっています。



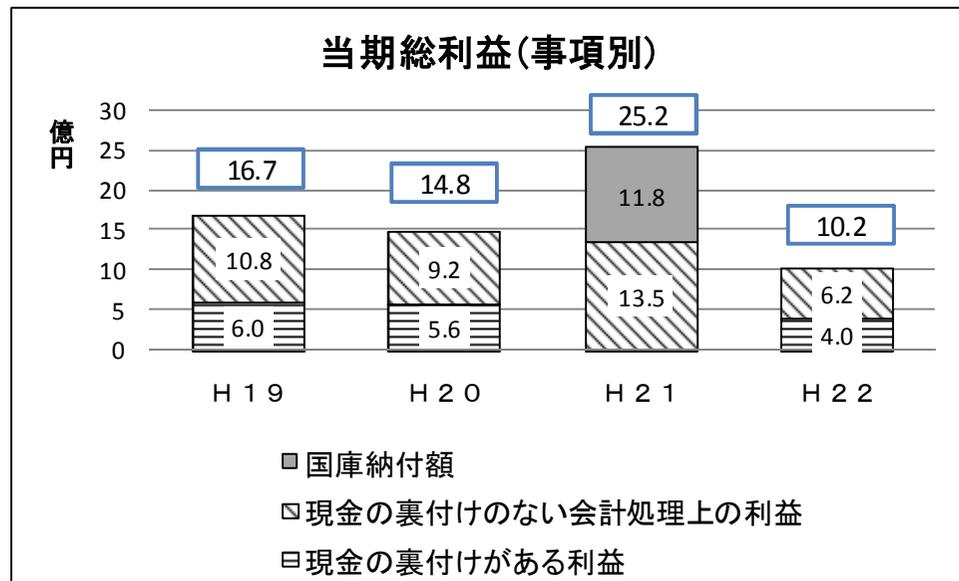
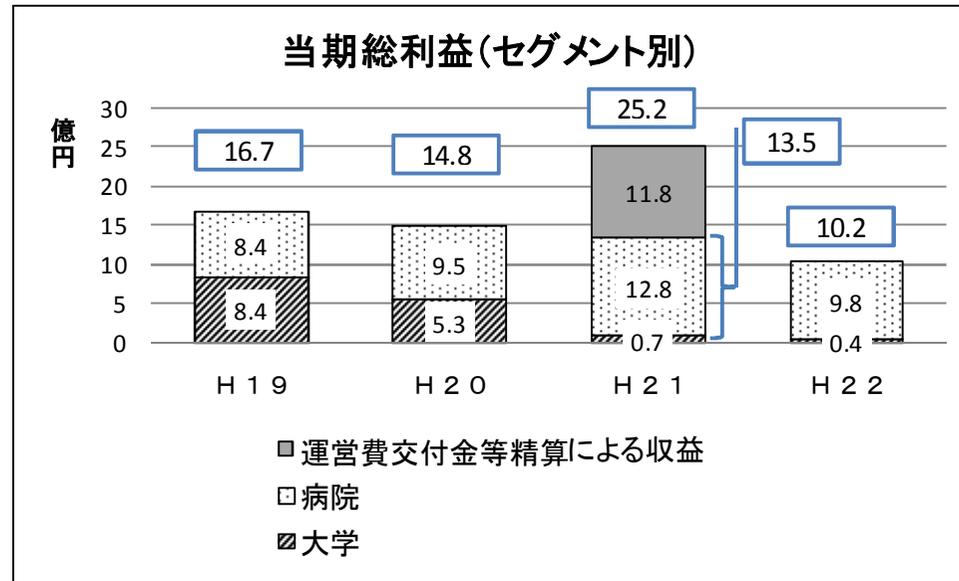
○当期総利益について

◆ 当期総利益は10.2億円
 となっています。

・平成21事業年度の25.2億円から中期目標期間最終年度における精算のための収益化額11.8億円を除いた13.5億円と比較して3.3億円減少しています。

※精算のための収益化額とは
 「第1期中期目標期間に交付された運営費交付金等で、退職手当など事項を指定して交付されているため未使用となった金額を収益化した額」を示します。

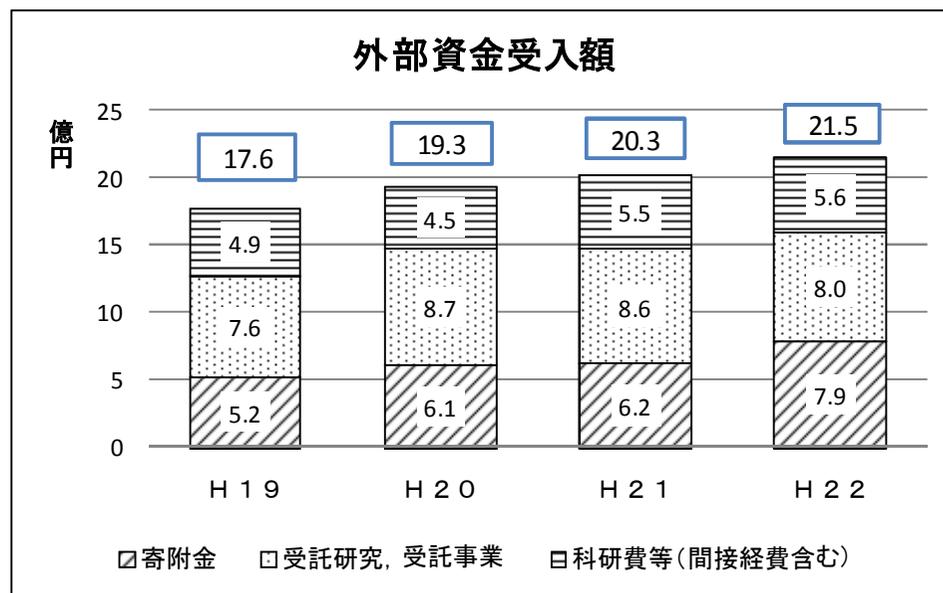
・当期総利益10.2億円のうち、現金の裏付けがある利益4.0億円を附属病院収入の増収分として目的積立金の文部科学大臣承認を受けるため申請を行う予定です。



○外部資金の受入状況

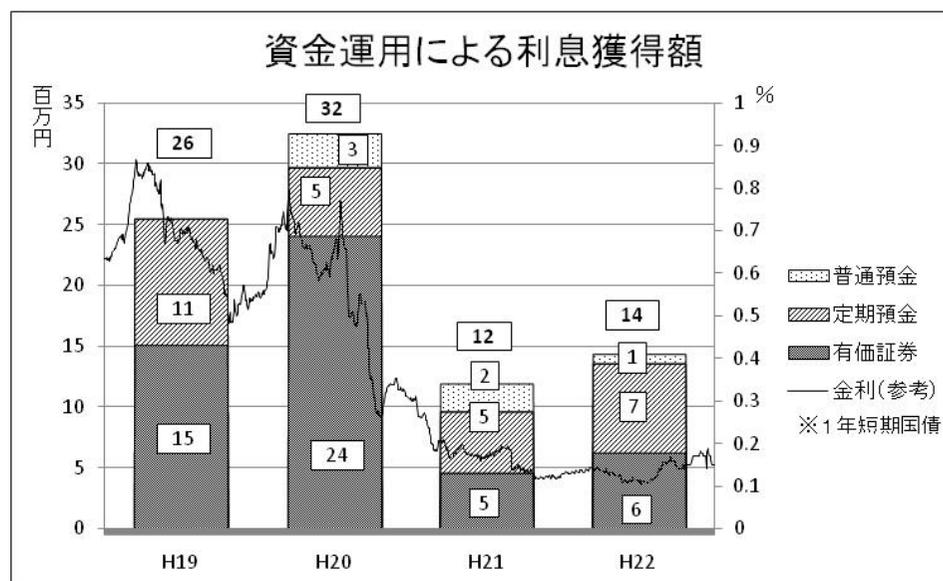
◆平成22事業年度は学生支援を目的とした寄附金(岩谷元彰奨学寄附金)を受け入れており、寄附金の受入が増加しています。

・同寄附金により育英基金を設立し、平成23事業年度から運用益による支援を開始する予定です。



○資金運用による利息獲得額

◆平成22事業年度の運用益は、増収の取り組みとして、1ヶ月～6ヶ月の短期運用を行ったことで前事業年度に比し2百万円増加しています。

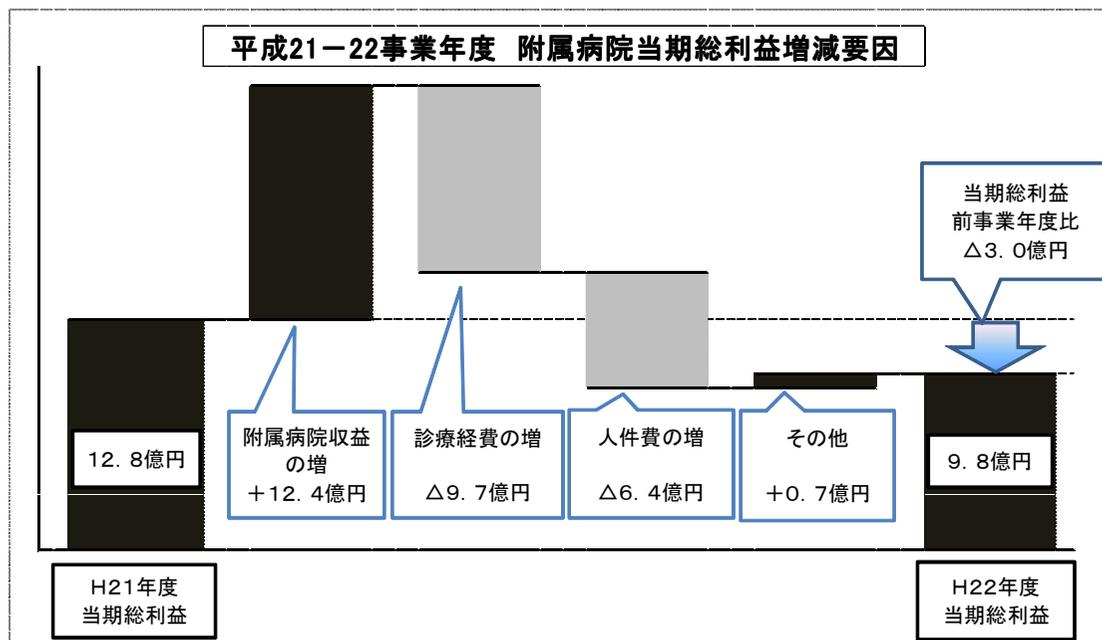


○附属病院の状況

◆ 附属病院の当期総利益は9.8億円となっています。

- 「附属病院収益の増」の要因
- ・高度救命救急センターの稼働, NICU(新生児集中治療室)・GCU(新生児室)増床
 - ・外来化学療法の件数増加
 - ・循環器, 整形外科等の手術件数増加
 - ・診療報酬の改定 など

- 「その他」の要因
- ・運営費交付金収益の減
 - ・資産見返負債戻入の増
 - ・補助金収益の増 など



(参考) 高度救命救急センター収支について

◆ 救命救急医療は不採算部門と言われており, 近隣の9市町村から補助金0.9億円の支援を頂いておりますが, それでもなお1.7億円の赤字であり, 附属病院全体でカバーしています。

(単位: 億円)

収入	
附属病院収入	2.4
補助金収入	0.9
計	3.3
支出	
人件費	3.4
診療経費等	1.6
計	5.0
収入-支出	△1.7

○借入金について

- ◆ 附属病院整備のため国立大学財務・経営センターから借入を行っています。
- ◆ 平成22事業年度の借入金期末残高は12.4億円減の174億円となっています。

- ・債務負担金
法人化以前に旧国立学校特別会計から財務・経営センターが承継した財政融資資金借入金
……期末残高 84.9億円
- ・長期借入金
法人化以降の借入金
……期末残高 89.1億円

